それでもやっぱりペロニスタ？――2019 年アルゼンチン大統領選予備選挙の分析

菊池 啓一

2019 年 10 月

（8,617 字）

＊写真、図表は文末に掲載しています

はじめに

2015 年の大統領選で決選投票のすえ勝利を収め、正義党（ペロニスタ党）に所属しない現職としては 1983 年の民主化以降初めての再選に挑戦している与党連合カンビエモスのマクリ大統領であるが、その実現は現時点では難しい状況にある。2019 年 8 月 11 日に実施された予備選挙以前は「当初は正義党のアルベルト・フェルナンデス元官房長官（以下、フェルナンデス）がリードするかもしれないが、本選の決選投票では市場にフレンドリーな経済政策を志向するマクリの逆転が可能である」という見方が少なくなく、その立場は各世論調査によっても支持されていた [1]。しかし、かつて国家介入型経済を志向していたクリスティーナ・フェルナンデス・デ・キルチネル前大統領（2007～2015 年在職、以下、クリスティーナ）[2]を副大統領候補とするフェルナンデスに予備選挙で 15.99%ポイント [3]のリードを許すと、予想外の結果に市場は激しく反応し、アルゼンチン・ペソは米ドルに対して 1 日で一時は 34%下落した [4]。

それでは、なぜ予備選挙でマクリはフェルナンデスに大差でのリードを許したのであろうか。本稿はこの問いについて検討することにより、2019 年 10 月 27 日に実施される本選挙について思索する材料を読者に提供することを目的としている。具体的には、予備選挙の結果を確認した後、市民のマクリ政権に対する評価とクリスティーナの選挙戦略を検討する。

2019 年大統領選予備選挙の結果

連続再選が 1 回だけ認められているアルゼンチンの大統領の任期は 4 年で、12 月 9 日の任期満了の 2 カ月前にあたる 10 月（今年は 10 月 27 日）に本選挙の第 1 回投票が実施される。そこでいずれかの候補が有効票の 45%、もしくは 2 位に 10%ポイント以上の差をつけて 40%を獲得した場合は第 1 回投票で新大統領が選出されるが、以上のいずれの条件も満たされない場合は上位 2 名による決選投票が第 1 回投票から 30 日以内(今年は 11 月 24 日）に行われる。

ただし、2009 年の法改正により、2011 年以降の国政選挙（大統領選・上院選・下院選）では 8 月に実施される予備選挙への参加が義務付けられている。各政党・選挙連合は単独もしくは複数の候補者を擁立することができ、複数の候補者がいる場合は予備選挙における政党・選挙連合内での最多得票者のみが本選挙に進む。他方、各政党・選挙連合には本選挙に候補者を擁立するための条件として予備選挙における有効票と白票の合計の 1.5%以上の得票が課されているため、政党・選挙連合の単独候補者である場合でも、この阻止条項をクリアする必要がある。

表 1 は 2019 年 8 月 11 日に実施された大統領選予備選挙の結果を示したものである（カッコ内は今回の選挙における選挙連合名)。2015 年の大統領選では予備選挙に 3 名の候補者を擁立したカンビエモスであるが、今回は最初から再選を目指すマクリに一本化され、いずれの政党・選挙連合もそれぞれ 1 名の候補者を擁立した。そのため、候補者選出をよりオープンなものにするという予備選挙本来の目的からは外れるものの、10 月 27 日の本選挙の行方を占うには絶好のデータを提供してくれる機会となった [5]。

今回の予備選挙には計 10 名が出馬し、6 名が阻止条項をクリアしたが、その勝者は正義党のフェルナンデスであった。2017 年の中間選挙では正義党キルチネル派自体が分裂し、下院で 10 議席、上院で 8 議席を失ったが（菊池 2018)、今回の選挙では大統領候補としてフェルナンデスを擁立し、クリスティーナ自身は副大統領候補に回ることで結集を図った。その結果、正義党の州知事や大ブエノスアイレス都市圏の市長たちだけでなく正義党反キルチネル派の一部を引き込むことにも成功し、その成果が 47.79%の得票という形で現れたのである。

他方、副大統領候補に正義党反キルチネル派のピチェット上院議員 [6]を迎え、2015 年 12 月の就任以降のこれまでの成果を強調したマクリであったが、31.80%の得票でフェルナンデスと大差での 2 位にとどまった。また、正義党反キルチネル派の結集を期待したラバーニャ元経済相とウルトゥベイ・サルタ州知事（副大統領候補）のコンビの得票も 8.15%と伸びなかった。

市民のマクリ政権に対する評価

それでは、なぜマクリは今回の予備選挙で勝利を収めることができなかったのであろうか。第一の理由として考えられるのは、市民のマクリ政権に対する評価の変化である。

アルゼンチンではさまざまな調査会社・調査機関が世論調査を行っており、その信ぴょう性も話題になっているが、図 1 はサン・アンドレス大学が毎回インターネットにアクセスできる全国の約 1000 人の有権者を対象に行っている「政治的満足と世論調査」プロジェクトにおけるマクリ政権の支持率の推移を示したものである。政権スタート時は 72%の回答者が支持するとしたマクリ政権であるが、しばらくの間は 50%前後で推移した。そして、一旦は 2017 年 10 月に実施された中間選挙を前に支持率が 66%まで回復したものの、その後は低下傾向にあり、予備選挙の前月にあたる 2019 年 7 月時点では 33%であった。

以上のように、マクリ政権の後半 2 年間は支持率がほぼ下がる一方であるが、その重要な原因として考えられるのが、現在の危機的な経済状況である。表 2 はマクリ政権下での主な社会経済指標の値の推移をまとめたものであるが、GDP は毎年プラスの低成長とマイナス成長を繰り返している。2015 年の政権交代により、国家統計センサス局はようやく正しい年間インフレ率を発表するようになったものの、2017 年は 25.0%だったものが 2019 年は 1 月～9 月末のインフレ率が 37.1%と悪化している。また、景気後退や高インフレ率、対外債務、ブラジル・レアルの下落などの外的要素などの影響を受けるかたちでアルゼンチン・ペソもアメリカ・ドルに対して大きく下落し [7]、さらに、2019 年上半期の貧困率も 35.4%にまで悪化している。

中間選挙の実施された 2017 年 10 月時点でも経済状況は決して芳しいものではなかったが、市民の目から見た汚職の減少が経済政策を含めた中間選挙後の政権運営への期待につながり、カンビエモスは勝利を収めることに成功した（菊池 2018）。しかし、その後も悪化する一方で IMF への支援要請を余儀なくされた経済状況を前に、クリスティーナ政権時代の経済政策の負の影響もあるものの、有権者の多くは今回の予備選挙においてはマクリ政権に NO を突き付ける投票を行ったと推測される。すなわち、マクリが今回の予備選挙で勝利を収めることができなかった理由の一つとして、市民の経済投票を挙げることができよう。

クリスティーナの選挙戦略の妙

ここまで見てきたように、市民の経済投票が予備選挙の結果を説明する有力な要因の一つであると考えられるが、マクリが失った票はどの候補に流れたのであろうか。現在の危機的な経済状況であれば、隣国ブラジルのボルソナーロ大統領のように既存の政党政治を批判して台頭する政治家が現れても不思議ではなく、今回の予備選挙にも政治経験が無いことを武器に既存の政党政治を批判するエコノミストのエスペルトや、ボルソナーロと同様に元軍人

のゴメス・セントゥリオン前ナシオン銀行副総裁が出馬している。しかし、マクリの新自由主義的な経済政策を非難する反マクリ票は右派の彼らにはほとんど流れず、両者とも阻止条項を上回るのがやっとという結果であった。

表 3 は、2015 年と今回の大統領選予備選挙における正義党の候補とカンビエモスの候補の得票を州別に比較したものである。同表から明らかであるように、前述の「マクリが失った票」という表現は必ずしも正確なものではない。というのも、カンビエモスは、正義党が弱いブエノスアイレス市で約 2 万 5000 票減らしているものの、全体としては 2015 年の予備選挙と比べて 133 万票伸ばしているからである。しかし、正義党がそれ以上に票を伸ばしたため、カンビエモスのマクリは予備選挙で正義党のフェルナンデスの後塵を拝することになった。

正義党は 2015 年の予備選挙と比べて約 348 万票を上積みし、そのうち約 155 万票を大票田のブエノスアイレス州で稼いでいるが、このような好結果を得られた背景には、クリスティーナの選挙戦略の妙があったと言っても過言ではないであろう。クリスティーナは当初は大統領としての返り咲きを狙っていたと言われているが、政治アナリストのベレンステインによれば、前政権時代の国家介入型経済政策を実施することは現在の世界情勢ではほぼ不可能であることと、ラテンアメリカで左派の退潮が見られることを勘案し、2019 年 5 月 18 日に自身よりは市場志向であるフェルナンデスを大統領候補、自身を副大統領候補として擁立することを公表した（Berensztein 2019）。

2017 年の上院選でランダッソ元内務運輸相と予備選で争うことを嫌ったクリスティーナは正義党とは別に自身の選挙連合を結成して正義党キルチネル派の分裂を招いたが（菊池 2018）、フェルナンデスはその際のランダッソの選挙対策委員長であったため、フェルナンデスの擁立は驚きをもって受け止められた。しかし、フェルナンデスを大統領候補、クリスティーナを副大統領候補とする選択は、以下の 4 つの効果をもたらしたと考えられる。

第一に、2017 年の中間選挙における敗北につながった正義党キルチネル派の分裂を少なくとも選挙に向けては解消できたことである。正義党の州知事や大ブエノスアイレス都市圏の市長たちに近い存在であるフェルナンデスの登場は、彼らとクリスティーナの息子のマキシモ・キルチネル率いる政治グループの「ラ・カンポラ」、クリスティーナ政権で経済相を務めたキシロフ下院議員をはじめとする正義党キルチネル派の政治家などの大結集を促し、ブエノスアイレス州をはじめとする各州での集票における彼らの支援を確固たるものにした [8]。

第二に、第一の効果と関連する点として、大統領選の行方にも大きな影響を与えるブエノスアイレス州知事選の候補をキシロフに一本化できたことを指摘できる。2015 年の同州知事選では、正義党キルチネル派は予備選挙前に候補を一本化できず、最終的にカンビエモスのビダルの逆転勝利を許した（菊池 2016）。今回も経済相時代の急進的な立ち位置で知られるキシロフへの一本化についても大ブエノスアイレス都市圏の市長たちから不満の声が上がったが [9]、フェルナンデスの支持もあり擁立が決まった。そして、少なくとも数年前から

ブエノスアイレス州内を下院議員としてくまなく回っていた[10]というキシロフの努力が実り、大統領選予備選挙と同時に実施された 2019 年 8 月 11 日のブエノスアイレス州知事選予備選挙で 52.74%の得票で勝利を収めたが[11]、この勝利もフェルナンデスの躍進に影響を与えたと考えられる。

第三に、正義党反キルチネル派の結集を阻止できたことも大きい。2018 年 9 月以降正義党反キルチネル派のスキアレッティ・コルドバ州知事、マッサ下院議員、ウルトゥベイ・サルタ州知事、ピチェット上院議員を中心に「第 3 極」を作る動き[12]がみられたが、フェルナンデスはそこから 2015 年の大統領選で 21.39%の有効票を獲得したマッサを引き抜き、彼の地盤である大ブエノスアイレス都市圏北部の票を固めることにも成功した[13]。

そして第四に、クリスティーナが選挙戦の前面に出ずに済んだ点も指摘できよう。2007～2015 年に政権を担当した彼女には汚職疑惑もあり、ネガティブなイメージを持つ有権者も少なくない。実際、先述のサン・アンドレス大学の「政治的満足と世論調査」プロジェクトの 2019 年 10 月の調査によれば、彼女に悪い印象を抱く回答者の割合は 63%にものぼる[14]。無論、大統領候補であれば選挙キャンペーンの前面に立たざるを得ないが、副大統領候補であるため、メディア等や集会での露出は極めて少ない。この点に関し、フェルナンデスは「クリスティーナ隠しはしていない」[15]と弁明しているが、フェルナンデスの得票に好影響を与えた可能性は否定できないように思われる。

以上みてきたように、選挙戦略の観点からは、フェルナンデスの擁立により正義党キルチネル派の分裂が選挙に向けて解消された点、ブエノスアイレス州知事選の候補をキシロフに一本化できた点、正義党反キルチネル派の結集を阻止できた点、選挙戦の前面にクリスティーナが出ずに済んだ点を、マクリが今回の予備選挙で勝利を収めることができなかった理由として挙げることができよう。

むすびにかえて

なぜ予備選挙でマクリはフェルナンデスに大差でのリードを許したのであろうか。本稿はこの問いについて考察するため、市民のマクリ政権に対する評価とクリスティーナの選挙戦略を検討した。そして、危機的な経済状況を前にした市民の経済投票とフェルナンデスの擁立によって正義党キルチネル派の分裂が解消された点、ブエノスアイレス州知事選の候補をキシロフに一本化できた点、正義党反キルチネル派の結集を阻止できた点、クリスティーナが選挙戦の前面に出ずに済んだ点を指摘した。

本稿で分析した予備選挙を受けて 10 月 27 日に本選挙が実施されるが、そこでの注目は第 1 回投票で勝者が決まるのかという点である。現在劣勢に立たされているマクリにとっては、決選投票に持ち込むことが逆転勝利への必須条件である。一方、フェルナンデスも予備選挙でのリードを保ったまま勝利できなかった場合、その後当選できたとしても「ラ・カン

ポラ」やキルチネル派の政治家たちと州知事や大ブエノスアイレス都市圏の市長たちとの間のパワーバランスの調整に苦労する可能性が高くなる。「どちらが勝つか」だけでなく、「どのように勝つか」という点にも注目する必要があろう。■

（2019 年 10 月 24 日脱稿）

写真の出典

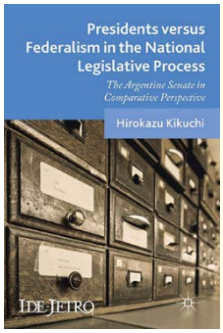
- 写真 1　Victor Bugge, La presidenta Cristina Fernández toma juramento al jefe de Gabinete de ministros, Alberto Fernández. (Presidencia de la Nación Argentina, from Wikimedia Commons [CC BY 2.0 (https://creativecommons.org/licenses/by/2.0)]).
- 写真 2　Casa Rosada (Argentina Presidency of the Nation), El presidente Mauricio Macri recibió en la residencia de Olivos a la directora del Fondo Monetario Internacional, Christine Lagarde. También participó de la audiencia el ministro de Hacienda, Nicolás Dujovne, from Wikimedia Commons. [CC BY 2.5 ar (https://creativecommons.org/licenses/by/2.5/ar/deed.en)].
- 写真 3　筆者撮影

参考文献

- 菊池啓一 2018.「2017 年中間選挙とアルゼンチン政治におけるその意味」『ラテンアメリカ時報』2017/18 年冬号 No.1421 15-18.
- 菊池啓一 2016.「2015 年アルゼンチン大統領選挙――なぜ与党連合は負けたのか――」『ラテンアメリカ・レポート』No.33 Vol.1 14-27.
- Berensztein, Sergio. 2019. *¿Somos todos peronistas? Del idealismo al pragmatismo*. Buenos Aires: Editorial El Ateneo.

著者プロフィール

菊池啓一（きくちひろかず）　アジア経済研究所海外派遣員（在ブエノスアイレス）。Ph.D. (Political Science)。専門は比較政治学、政治制度論、ラテンアメリカ政治。最近の著作に、Presidents versus Federalism in the National Legislative Process: The Argentine Senate in Comparative Perspective. Cham: Palgrave Macmillan (2018)、「表現の自由・水平的アカウンタビリティ・地方の民主主義―定量データでみる世界の新興民主主義―」（川中豪編『後退する民主主義、強化される権威主義――最良の政治制度とは何か――』ミネルヴァ書房、2018 年）など。



注

[1] たとえば、世論調査会社マネージメント・アンド・フィットが 7 月 1 日～8 日に全国の 2000 人を対象にした調査によれば、予備選挙については 39.9%がフェルナンデス、38.2%がマクリを選択したものの、マクリ対フェルナンデスとなった場合の本選決選投票については 45.0%がマクリ、42.9%がフェルナンデスと回答した（*Clarín*, 10 de julio de 2019）。

[2] 現職は上院議員である。

[3] 後述するように、本選挙とは異なり、予備選挙では有効票と白票の合計に対する得票の割合をカウントする。

[4] *La Nación*, 13 de agosto de 2019.

[5] 18～70 歳の有権者の投票も義務である（16~17 歳と 71 歳以上の有権者の投票は任意）。そのため、予備選挙を「公式世論調査」と揶揄する声も少なくない。

[6] 元々はキルチネル派であったが、2017 年末にクリスティーナと袂を分かった。

[7] MercoPress のウェブサイト（2019 年 10 月 21 日閲覧）。

[8] 下院正義党会派関係者（匿名）への筆者のインタビュー（2019 年 10 月 8 日）。

[9] *Clarín*, 22 de mayo de 2019.

[10] 下院正義党会派関係者（匿名）への筆者のインタビュー（2019 年 10 月 8 日）。

[11] 内務省のウェブサイト（2019 年 10 月 24 日閲覧）。一方、人気の高いビダル州知事の得票は 34.54%にとどまったが、マクリ政権に対するネガティブな評価の悪影響を受けた感も否めない。

[12] ここで挙げられている 4 名のうち、「第 3 極」を作る動きに最後まで残ったのがウルトゥベイであり、ラバーニャの副大統領候補として出馬した。

[13] これらの動きに対し、マクリ率いるカンビエモスもピチェットを引き抜き、2019 年 6 月 11 日に副大統領候補として擁立したが、後手に回った感も否めなかった。

[14] サン・アンドレス大学の「政治的満足と世論調査」プロジェクトのウェブサイト（2019 年 10 月 24 日閲覧）。

[15] *Diario UNO*, 21 de julio de 2019.

写真１　アルベルト・フェルナンデス官房長官（当時）の就任宣誓に立ち会う
クリスティーナ・フェルナンデス・デ・キルチネル大統領（当時）（2007 年 12 月 10 日）。

写真２　ラガルド IMF 専務理事（当時）を大統領公邸に迎えたマクリ大統領（2018 年 3 月 16 日）。

写真3　大統領候補のフェルナンデスとブエノスアイレス州知事候補のキシロフの選挙広告。撮影場所はブエノスアイレス市内のリマ通り沿いであるが、ブエノスアイレス州方面に行く車やバスも通る7月9日大通りからも見える場所に掲示されていた。この選挙広告にも、クリスティーナの顔写真は掲載されていない（2019年10月18日）。

表1　2019年アルゼンチン大統領選予備選挙結果

	得票数	%
フェルナンデス（みんなの戦線）	12,205,938	47.79
マクリ（変革のために共に）	8,121,689	31.80
ラバーニャ（連邦合意）	2,081,315	8.15
デル・カーニョ（左派労働者戦線）	723,147	2.83
ゴメス・セントゥリオン（我々の戦線）	670,162	2.62
エスペルト（自由と尊厳のために集まれ）	550,593	2.16
その他の4候補の合計	307,538	1.19
有効票合計	24,660,382	96.54
白票	882,659	3.46
有効票・白票合計	25,543,041	100.00
無効票	318,009	
合計	25,861,050	

（注）有効票と白票の合計の1.5%以上を獲得し、本選挙に進んだ候補者のみ記載。カッコ内は今回の選挙における選挙連合名である。

（出所）国家選挙機関のウェブサイト（2019年10月21日閲覧）をもとに筆者作成。

図 1　マクリ政権の支持率の推移

（注）「概して、あなたはマクリ政権を支持しますか？それとも支持しませんか？」という質問に「強く支持する」「ある程度支持する」と回答した割合の合計。誤差の範囲は±3.15%ポイントである。

（出所）サン・アンドレス大学の「政治的満足と世論調査」プロジェクトの調査結果（2019 年 10 月 21 日閲覧）をもとに筆者作成。

表 2　マクリ政権と社会経済指標

	2016年	2017年	2018年	2019年	備　　考
GDP成長率（%）	-2.08	2.67	-2.48	0.6	2019年については前年の第2四半期同士での比較。
年間インフレ率（%）		25.0	47.1	37.1	2019年は1月～9月末のインフレ率。
対米ドルレート（ペソ）	15.01	17.39	38.73	59.39	各年８月１日時点での値。
貧困率（%）	30.3	25.7	32.0	35.4	2016～2018年は下半期、2019年は上半期の数値。

（注）インフレ率についてはクリスティーナ政権下での数値操作があったため、国家統計センサス局発表の正しい公式データは 2017 年以降のものしか存在しない。

（出所）国家統計センサス局のウェブサイト（2019 年 10 月 21 日閲覧）と yahoo! finanzas のウェブサイト（同）をもとに筆者作成。

表 3　大統領選予備選挙（2015 年・2019 年）での各州における得票

	正義党			カンビエモス		
	2015年（シオリ）	2019年（フェルナンデス）	差	2015年（3候補）	2019年（マクリ）	差
ブエノスアイレス州	3,418,176	4,970,252	1,552,076	2,510,298	2,907,050	396,752
ブエノスアイレス市	426,934	644,885	217,951	897,660	871,785	-25,875
カタマルカ州	97,103	127,752	30,649	63,587	56,827	-6,760
コルドバ州	280,740	637,985	357,245	678,186	1,007,842	329,656
コリエンテス州	290,172	333,314	43,142	169,482	208,620	39,138
チャコ州	333,269	388,866	55,597	156,354	169,346	12,992
チュブト州	112,425	162,457	50,032	54,094	71,830	17,736
エントレリオス州	287,200	377,861	90,661	252,820	300,095	47,275
フォルモサ州	181,912	215,656	33,744	49,353	79,229	29,876
フフイ州	157,209	188,716	31,507	86,266	118,587	32,321
ラパンパ州	81,499	107,184	25,685	71,029	69,190	-1,839
ラリオハ州	68,818	99,224	30,406	45,642	61,925	16,283
メンドーサ州	336,797	449,526	112,729	363,589	412,331	48,742
ミシオネス州	355,537	380,099	24,562	136,573	176,605	40,032
ネウケン州	115,769	176,509	60,740	88,905	108,561	19,656
リオネグロ州	160,751	222,078	61,327	81,260	93,311	12,051
サルタ州	273,686	349,024	75,338	125,544	146,973	21,429
サンフアン州	216,245	237,327	21,082	63,564	116,745	53,181
サンルイス州	48,186	126,476	78,290	60,965	97,111	36,146
サンタクルス州	73,042	83,564	10,522	41,929	34,151	-7,778
サンタフェ州	550,970	874,154	323,184	533,398	676,141	142,743
サンティアゴデルエステロ州	311,640	429,036	117,396	66,393	78,744	12,351
ティエラデルフエゴ州	41,454	54,184	12,730	19,338	19,665	327
トゥクマン州	501,039	569,809	68,770	175,049	239,025	63,976
合計	8,720,573	12,205,938	3,485,365	6,791,278	8,121,689	1,330,411

（注）2015 年のカンビエモスについては予備選挙に出馬した 3 候補（マクリ、サンス、カリオ）の得票の合計を記載。

（出所）国家選挙機関のウェブサイト（2019 年 10 月 21 日閲覧）と国家選挙局のウェブサイト（同）をもとに筆者作成。